里地里山保全・再生の特徴的取組　個票Ａ（対象地域の概況）

No.81	砥峰（とのみね）高原	生物地理区分	コナラ林(西日本)
		地域区分	奥山周辺

所在地			地形条件					
都道府県	兵庫県		○	1.山地		2.山麓部		3.丘陵･台地
				4.低地		5.その他		
市 町 村	神河町	環境要素		1.二次林	◎	2.草地		3.水田
				4.畑		5.小川･水路		6.ため池
集落名称等	川上			7.池沼･湿地		8.社寺林		9.人工林
				10.その他				

環境要素（対象とする地域に含まれる環境要素）
◎：面積割合が最大のもの　○：それ以外の環境要素

自然環境･景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定･評価
都道府県立自然公園（雪彦峰山県立自然公園） 鳥獣保護法に基づき規定する特別保護地区	砥峰高原の湿地帯は、「兵庫の貴重な自然」によれば、植生タイプ「湿地植生」の植生種類「湿地植物群落」であり、貴重な群落として A ランク（規模的、質的にすぐれており貴重性の程度が最も高く、全国的価値に相当するもの）に指定されている。
特徴的な動植物や生息環境	**対象地の景観の現状**
	高原内は、散策道以外立ち入り禁止となっている。

写真の説明：西日本有数の約 90ha に及ぶススキの大草原

写真の説明：毎年春に行う恒例行事、山焼きの様子

里地里山保全・再生の特徴的取組　個票Ｂ（対象地域の取組）　　取組主体　◎：主な主体、○：その他の主体

No.81		砥峰（とのみね）高原	取組主体		
所在地	都道府県	兵庫県		◎	1.地域コミュニティ(集落･組合等)
	市 町 村	神河町			2.団体･企業･学校等
	集落名称等	川上		○	3.行政による支援施策の活用
					4.多様な主体が参加･連携する組織体
					5.その他

取組主体	主な主体の名称			神河町川上集落
	その他の主体の名称			兵庫県、神河町
目的 ●：主 ○:その他	○	3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用		
		自然観察会		
		環境教育・学習活動	＊	とのみね自然交流館による観光客の草原利用のあり方などの指導
		里地里山体験・環境保全	＊	毎年１回春季の火入れによるススキ草原の維持管理
		農林業体験活動		
		エコツアー		
		その他	＊	火入れの一般公開、観月祭、ススキ祭りなどの実施によるススキ草原の観光資源としての活用
	○	4.野生動植物やその生息地の保全・管理		
		取組内容		スススキの密度・草丈などが低下しているとの指摘があるほか、シカの食害の影響と思われる草原生植物の多様性、個体数の低下が確認されていることから、平成 21 年度より、川上集落、兵庫県、神河町、兵庫県立人と自然の博物館の協働でその原因解明のための調査を実施している。
	●	5.地域の良好な景観の保全・修復		
		取組内容		砥峰高原ススキ草原は、明治 15 年頃より放牧地として開発された草原である。本草原は、かつて茅葺屋根材の伐採地であったが、昭和 38 年に兵庫県立自然公園として指定され、昭和 50 年までに放牧地としての利用はほとんどなくなったものの、現在でも毎年 1 回春季の火入れが行われ、ススキ草原として維持・管理され、多様な草原生植物が生育する。 平成 8 年からは、春季の火入れ（山焼き）の様子を一般公開し、イベント化するほか、秋季はススキの穂が広がる様子を鑑賞する観月祭やススキまつりを地元の川上集落が主体となって行うなど、保全だけでなく観光資源としても持続可能な形で活用をすすめている。
連携・協働による取組内容・役割分担等				県自然公園として指定を受け、地元集落による火入れ管理のための費用の一部が公的に補助されているほか、神河町より人的補助が得られている。
取組の特徴や強調したい点				・地元川上集落の住民が砥峰高原のススキ草原の生物多様性・景観の重要性を認識し、主体的に管理に取り組んでいる。 ・草原の火入れが各地で行われている中で、イベント化している例は少なく、特筆すべき点と考えられる。

		課題グループ
取組の概要	ススキ草原景観保全のための伝統的火入れと観光資源としての活用	●景観文化
事例の特性	観光資源としての草原の維持と活用	
取組の中で他の地域の参考となる点	かつて放牧地であったが放牧利用のなくなったススキ草原を、今も地元集落住民が火入れを行い維持管理している。火入れの一般公開、観月祭など観光資源として活用することにより、草原保全と両立を図っている。	

資料：神河町 HP　http://www.town.kamikawa.hyogo.jp/forms/top/top.aspx